

忠岡町のまちづくりワークショップは、忠岡町都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の策定にあたって、町民の皆様のご意見などを計画に反映していくために実施するものです。



第1回まちづくりワークショップ ～ 忠岡町の新たなまちづくりにあたって ～

当日のワークショップでは、大阪府立大学の下村教授にご講演いただき、まちづくりの現状や課題、今後の取組などについて意見交換を行いました。

開催日時

- 会場 文化会館 地下会議室
- 日時 令和元年12月20日（金）
19：00～21：00
- 参加者 22名（事務局含む）

プログラム

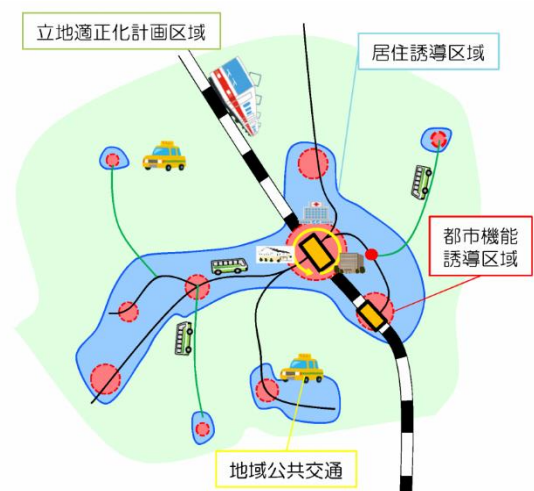
- 開会・町長挨拶
- 基調講演「忠岡町のまちづくりについて」
大阪府立大学 下村泰彦教授（都市計画審議会 会長）
- まちの課題について
- 意見交換・閉会

都市計画マスタープランとは

- ◆「市町村の都市計画に関する基本的な方針」と言い、**都市計画法第18条の2**に基づき、**町が定める**こととされている法定計画です。
- ◆まちづくりの具体性のある**将来ビジョンを確立**し、地区別のあるべき「まち」の姿を具体的に明示し、**地域における都市づくりの課題とこれに対応した整備等の方針**を明らかにするマスタープランです。

立地適正化計画とは

- ◆「**都市再生特別措置法**」に基づき、**町が定める**ことができる計画です。
- ◆人口減少や少子高齢化が、今後加速度的に進行することを踏まえ、都市機能（商業・医療などの生活関連サービス施設）を住民が集まりやすい地域に維持・誘導することで、暮らしやすく、**コンパクトなまちづくり**を中長期的に目指す計画です。
- ◆**都市機能の維持・誘導（都市機能誘導区域）**に加え、**居住の誘導（居住誘導区域）**や**公共交通の充実に係る施策**を定め、持続可能な都市経営を目指します。



立地適正化計画のイメージ（国土交通省）

「下村泰彦教授 講演「忠岡町のまちづくりについて」」

(講演内容)

◆ 戦後の都市づくり

高度経済成長から郊外部での大規模ニュータウン開発といった成長都市づくりから、居住快適性や環境問題、安全・安心への関心の高まりなどの成熟期の都市づくりに変化している。



◆ 現在の少子高齢化問題と地方創生

【少子高齢化によって引き起こされる諸問題】

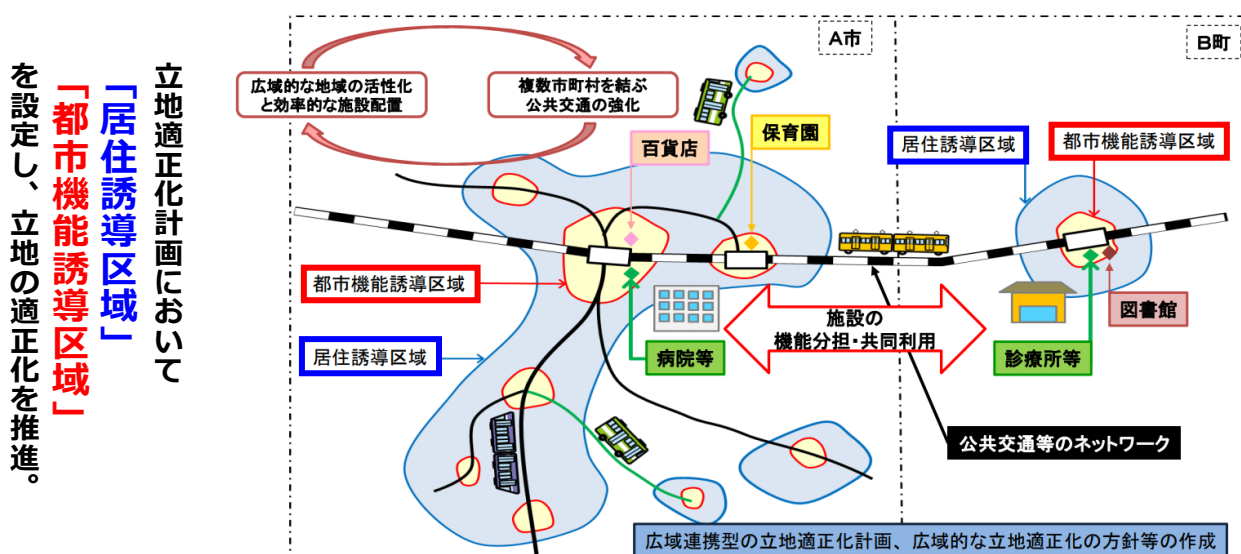
- ・生産年齢人口（労働人口）の減少による国力の低下
- ・若年労働者の減少による、深刻な人手不足
- ・消費者の減少による経済の縮小
- ・高齢者の増加による社会保険料などの負担の増加
- ・家族・親戚関係の希薄化

問題の解決に向けた…

「地方創生」の取組

人口ビジョン、地方創生総合戦略（雇用・移住定住・出生率の向上）

◆ 都市計画でできること（立地適正化計画）



都市機能誘導区域

医療・福祉、教育・文化、商業等の都市機能を鉄道駅周辺などに誘導し集約することにより、各種サービスの効率的な提供を図る区域を設定する。

居住誘導区域

基本的に都市機能誘導区域の周辺に位置し、生活サービスやコミュニティが持続的に維持できるように居住を誘導する区域。災害に対する安全性の確保や都市機能へアクセスするための交通網の形成が重要となる。

◆ 立地適正化計画の他市事例…高石市と阪南市の居住誘導区域設定の事例紹介

◆ これからのまちづくり…協働のまちづくり、計画を立てて終わりではなく、やれることから始めるまちづくりが必要である。

《ご意見・ご質問など（概要）》



Q. 大阪における開発は北部が進んでいて、南側は進みが遅かったイメージですが、なぜでしょうか？

太平洋ベルト時代において、北九州から東京までを考えた場合に、骨格軸は大阪北部となります。大阪万博の影響もあり、数多くのニュータウン開発などが進んだものと考えられます。

また、個人的な見解ですが、都市計画は右回りで進んでいると思います。関東でも横浜、埼玉、最後に千葉というような右回りの順番で開発が進んでいます。（下村先生）

Q. 周りからみた忠岡町の良いところは？

良いところは、お祭りに若い方が集まっているところで、そういったイベントは遠方に住んでいる人が帰ってくるような機会にもなります。

お祭りを取り仕切っている中堅の方に、まちづくりにも協力してもらえように働きかけるなど、若い方がまちづくりに関われる仕組みがあると良いですね。（下村先生）



Q. まちづくりを行う上での留意すべき点は？

地域には魅力がまだまだ隠されています。その隠れた魅力をどのように発掘していくかが重要です。

また、地元の人が気が付いていない魅力もあります。そういったことをまちのいろいろな人と共有することも大切です。（下村先生）

Q. 忠岡町に立地適正化計画は必要ですか？

持続可能な自治体経営を考えた場合、どこかのタイミングで計画策定を考えなければならなくなると思います。

人口減少がこのまま進むと、生活サービスなどの都市機能を維持することには限界が来ると考えられます。

まずは、「現状のままではいけない」という意識を持つことが必要だと思います。（下村先生）



Q. いま忠岡町では、教育を充実させて地域活性化をめざしていますが、教育水準と人口増加に関係はありますか？

教育の中に、まちづくりへの意識を盛り込んでいく必要があると思います。（下村先生）

Q. 一貫教育はどうでしょうか？

検討の内容については庁内で確認し、次回ワークショップで回答します。（建設課）



Q. 忠岡町には空き家がどれくらいありますか？また、ひとり暮らしの高齢者世帯数はわかりますか？

空き家数については、過去に全数調査を実施しています。戸建て住宅で約 70 件、長屋や共同住宅もあわせると約 120 件でした。そのうち、危険空き家も数件ありましたが、現在は撤去済みです。しかし、将来的に危険空き家になる物件もあるかと思われます。

ひとり暮らしの高齢者世帯へは年 2 回訪問しています。その数は数百件あり、多くの方が賃貸住宅に住んでいると思われます。(建設課)

まちづくりに空き家を活用できればと思います。
また、ひとり暮らしの高齢者についても、便利なエリアに集中して移り住んでもらい、空いた家に移住に活用できれば良いなと思いました。(参加者)



忠岡町はコンパクトかつ平坦で移動がしやすく、非常に魅力のある町だと思います。地域活動に対する住民の意識もあり、マナーも良いです。

防犯について、メイン通りだけでも明るくできないでしょうか？
交通安全について、子どもたちのスクールゾーンにハンプ※などを付けるなどの検討をしてほしいです。

まちづくりは一朝一夕でできるものではないと思いますので、できることからやっていくことが一番良いと思います。

(参加者)

※ハンプ

道路の一部を隆起させ、通過する車両に上下の振動を及ぼすことで**運転者に減速を促す構造物**の総称。機能や形状によって、スピードハンプやスピードクッションなどとも称される。



《主なまちの課題》



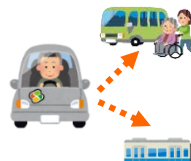
災害に強く安全
安心な都市づくり



住環境と産業
環境の調和



忠岡駅周辺の
魅力向上



公共交通、自転車
の利用促進



緑環境と公園の
整備・良好な
景観の形成



子育て環境
の整備